町のたより
発行所
愛媛県喜多郡
長濱町役場
印刷所　岸本印刷所
電話212番

新町の構想成る

一月一日發足

去る八月二十六日結成後しば〳〵会合を重ね、各分科委員会に於て周到綿密な調査研究を續けてゐた長浜町外五ケ村合併促進協議会では十月六日長浜町役場に総委員会を召集、基本的構想を一気に議決、新生大長町として一月一日発足することに決定した。

当日は会長以下全委員出席、地方事務所よりは池田所長、池川総務課長、北林主事が来臨、次の諸件が議決されたのであつた。

◎条例規則規程の取扱

新町の長の職務執行者が合併と同時に専決すべき、条例規則規程等二十一件を上程、「新町職員退職手当支給条例」だけを保留とし他は全部原案通り決定した

◎地名の決定

新町の管轄区域内の大字について審議した。

○長浜町は従前通り大字長浜、仁久、青島。

○喜多難村も同じく大字今坊、黒田。

○櫛生村は新たに、大字櫛生、沖浦。

○出海村は大字出海。

○大和村は従前通り大字豊茂、下須戒、穂積、上老松。

○白滝村は大字戒川、大越、柴、下須戒、加屋にすることで意見の一致を見たが、白滝の加屋は従前の白滝村の名を残す意味で大字白滝となる公算が強く又、大越の一部と戒川の一部とを合して、何れかに編入整備すると云ふことも考へられている。

◎部落連絡員の設置

各町村とも現存嘱託員、弘報委員、連絡員等名称は区々に亘つているが、何れも連絡事務を取扱ふ機関が設けられてゐるので、此の機会に区域の調整等も行ひ呼称を『地区委員』と改め従前通り設置することに決定した。

◎選挙管理委員会

法定されてゐる通り、各町村の委員中より三名の新委員を互選して整理統合することに決定。

◎町建設基本方針

新町が如何なる理念に基いて建設されるべきかを指向する「町の憲法」とも云ふべき重要案件である。慎重審議の結果次の如く成文化された。

『新町は長浜町を中心とする六ケ町村の大同団結によりその強力な提携の下に産業文化観光各般の建設を期して発足するものである

これが為長浜港の整備拡充と併行して農林水産の振興をはかり併せて工場の誘致を促進すると共に観光施設を充実して新町住民の福祉を増大し生々発展の理想郷たらしめることを基本方針とする』

◎新町の名称

新たな町として発足するのだから新しい町名を選ぶがよいと云ふ説と、伊豫長浜と云ふ主張と　現在の長浜町のまゝと云ふのと大体三説に分れてゐたが、結局旧長浜町は解消し、新たに旧六ケ町村の区域に於て長浜町と云ふものが生れたと云ふ考へ方に落着き新町名は『長浜町』とすることに確認された。

◎新町役場の位置

現在の長浜町役場の位置とすることで決。

◎合併の期日

いろ〳〵論議されたが結局、新町発展の為の百年の計を元旦に求めることとし昭和三十年一月一日とすることに決定した。

◎一般職の身分取扱

希望退職者の外は全員新町に引継ぐことゝし給与の調整は新町長の手で行ふことに議決した。

◎自治功労者の表彰

表彰の範囲を次の通りに申合せた。

1 町村三役　故人は除き現職者及退職者全員

2 議会議員　現議員は全員　非現役は十二年以上議員たりし者

3 更員、区長連絡員等十五年以上勤續した者

4 其の他　各町村の財政に応じて行ふ

◎議会議員の定数

合併促進法によらず、自治法の定むるところに従ふことにした。

従つて議員の数は三十名となり、新町発足後新たに選挙が行はれるのである。

◎選挙の時期

そこで首長及び議員の選挙の時期は何時にするかを討議した結果

町長選挙　二月一日

議員選挙　二月五日

と云ふことに意見の一致を見た。

◎選挙区の設置

議会議員については旧町村を単位とする小選挙区とすることに大体意見の一致を見た。

農業委員会委員については白滝大和で一地区　その他で一地区に分割、前者の委員を十四名、後者を十三名とすることで諒承した。

◎今後の事務処理日程

十月十八日――二十日の間に各部連絡会議を行ふ

十一月十五日　最終の総務委員会を召集する

十一月二十日　全体会議

十一月三十日　各町村で合併決議をする。

十二月初旬　県議会にかける。

其の他細部の申合せを行ひ、茲に新長浜町生誕の基本線が完全に打立てられ、一路合併への途をばく進することになつた。

鱗文化の日に思ふ

小山龍之輔

十一月三日の朝窓の戸を開けると、向いや隣りの家に、国旗が立つている。嘗て住んでいた長浜町とはちがつた長浜町であるように思つた。というわけは、前には国旗の姿を見ることは少なかつたが、今ははためく日の丸の白赤が数多く美しく軒並みを彩つているからであり、この事はとりもなおさず、町の人達が、文化の日に対する国民としての認識と自覚が深まり、町政が行きわたり、社会教育が自然に浸透したからであろう、と考えたからである。

然し、一歩深くこの文化の日と私達の生活とが、どう結びつくのか、どう結びつけられるべきであるのかということを、町の人々や日本の国民達は考えているのであろうか、と思うと私は心細い感じがするのである。

文化の日は自由と平和を愛し、文化を進める日として、国民が祝うように制定されたのであるから、吾々は毎年この日を祝ふと共に吾々の生活が、自由と平和を愛する方向へ営み進められているだろうか、文化を進めるように努力されているだろうか、という事を反省しながら、現実の実際生活をより善く推進させるものが、年毎に増え豊かになつて行くようにしなければならぬと思う。

所が文化を進める、といつても、その文化とはどんなものかということになると、識者の中でもはつきりとした考えを持つている人は少ない。だから一般の人達が確たる考えのないのはあたりまえである。文化といえば、人は古い昔の立派な建築、仏像、絵畫、学的書物、音楽、詩歌　物語など、古い昔のものゝように考えて　文化財と文化とをゴッチャにしているようである。こうした昔の立派なものは文化財であり、文化ではない、又文化財はこんなものばかりでなく、まだ外に色々沢山あるのである。

然しここではゴタゴタと面倒くさい理くつを言うことはやめにして、文化とは何ぞや、ということをわかりやすく説明して、町の皆様に如何に生活すべきであるか、を考え実行していただこうと思うのである。

文化という言葉は独乙語のクルツールを日本語に訳したもので、田を耕して土地をよくするように、心をよくして、人の世を住みよくするように、考え工夫する意味を持つている言葉である。その昔、肱川河口は橋がなく、沖浦と長浜とは船渡しで交通していたが更に船橋を工夫し作り　更に更に工夫を進めて今のように堂々たる開閉自在の大鐵橋が出来て、交通が便利になり、村や町は住みよくなつた。こうした状態を交通文化が進んだというのである。そして考え工夫して作り出した物即ち鐵橋を文化財というのである。私は大洲に住むようになつてから、加藤のお殿様と懇意になり、しば〳〵酒の席を共にして、戯れじよう談を言つては、昔ならきり捨て御免と首が飛んでしまうんだがと思いつつ、民主々義政治形態の今の世の住みよさ気楽さを、今さらながらしみじみと思つたことがあつた。人が団体になつて生活をして行くには、秩序を保ち　互に他を害しないように平和に暮して行けるように　するには　互にこれこれの事を守ろうと約束したり　規則を作つたり、相談会を持つたりするように、考え工夫するものである。これが道徳であり、法律であり　政治である。だから民主主義の政治　共産主義の政治を考え工夫することも文化であり、道徳や法律や政治や経済や芸術や宗教を考え工夫し創り出そうとするのも文化である。町や村にはえをなくするように、稲作に害を及ぼす草や虫をなくするように、流行病が生じないように衛生に気をつけるように　互の身体を健康になし　保ち行くべく栄養をよくするように　冠婚葬祭を品よく然し厳めしく　経済的に然も礼を失はず　程よくやるように考へ工夫することなど、要するに人の世の生活に利益と幸福を増すように考え工夫する努力営み續けて行くことを文化というのである。そしてその文化にも価値ねうちの多いのもあれば少いのもあり、これをよく考えて吾らは偉大にして、価値多い文化をつくるように心がけねばならぬ。たゞ昔の文化を尊重するだけでは駄目である。そして今私達が身近に最も痛切に感じ要求しているものは政治文化だと思う。即ちよい政治を行うことであり　その方法を考え工夫することである。金銭を以て投票してくれと願うような政治家は反文化人であり非道徳人であり　無実の人身攻撃のデマをとばして反対派の政治家をけなすような人々は政治文化を毒するボスであり　これ又反文化人である。一国の、一県の　一町村の政治は　その国民の　その県民の、その町村民の文化の程度に比例する。金銭によつて、情実によつて、私情によつて、感情によつて選挙投票する人が多ければ多い程、その国、県、町村の政治は害悪多く、腐敗堕しいものとなるものである。故に私は文化の日に当つて思う。吾々は先づ道徳によつて、理性によつて、人情によつて（私情にあらず）行動する文化人たらんことを固く誓い欲するものである。

災害復舊事業の見通し

合庶第十五号及び十二号に依る災害復旧事業は次の通りであるが、漸く農林省の査定を終へたのみで建設省及び運輸省分が未了の為　その全ぼうを決定的に報告することが出来ないが出来るだけ頑張つて　両省の査定を通過させる様萬全の準備を整へてゐる。

最も困難を豫想されるのが西海岸港町亀田工場寄りの防波堤カサ上げ増強工事であつて　この箇所は何等災害に依る破壊の事実がなく従つて災害復旧のわくに入らず、防災工事として取上げて貰ふより外に途がないからである。

災害復旧だけでも容易ならぬものがあるのであつて防災（災害を受けぬ様に事前に補強すること）工事にまでは手の届きかねる国の現況である。

併しながら防波堤そのものの被害はなくとも　毎度の高潮に水びたしになる此の地区の人々の上に思ひを致すとき　何が何でもこれだけは通過させねば相成らぬものであり、去る六日来浜した小沢建設大臣に対しても、長浜町の要望を此の一点に集中し　強く懇請陳情しておいた。

次にむづかしいのが仁久一帯の肱川護岸復旧で、この地区は造船所の部分だけを分断せねばならぬことが難点とされている。

友石長屋と呼ばれている所が出水の都度惨害を蒙ることは県でも十分認めてゐるのであるが、今日まで採用に致らなかつた。

今回の査定では何とかしてやりたいと力こぶを入れて頂いてゐる土木事務所の御援助を強く期待するものである。

こうした諸事業が速かに施工されて　水に潮に　痛めつけられることのない長浜町として　常に明るく健全な生活が楽しめる様希念して止まぬものである。

査定済のもの

農林省関係

事業名　事業費決定額単位千円

青島地下浜堤防　二三七二

同馬谷護岸根固　九四六

同埋立地堤防　一六五六

右の中、地下浜堤防は応急本工事として既に施工中である。

査定未済のもの

建設省関係

事業名　事業費未決定単位千円

肱川護岸（仁久）八〇〇〇

肱川右岸防波堤（高校裏）一一〇〇

西海岸防災（港町）六〇〇〇

青島弁天島護岸　一〇六四

青島海岸（裏側）一八三四

運輸省関係

防砂突堤（温泉前）一二〇〇

西海岸防波堤　一六〇〇〇

港湾岸壁カサ上（全域）二〇〇〇

右の中、西海岸防波堤は建設省で防災として通過しなかつた場合　運輸省の査定にかけようとするものである。

公營住宅着工

本年度公営住宅は鐵筋十二戸、木造二戸計十四戸を建築することになり、その敷地を物色中であつたが、一柳、友石両氏のあつせんに依り、仁久鐵道線路上方にある　友沢西田、門田三氏の土地を分譲して頂くことになり、一応候補地として選定し、認可手續をとつたのであるが、敷地に通ずる現在の道路が餘りに狭溢である為に、国の認可を得ることが困難となり、一頓挫を来すかに憂へられていた

幸にして此の事情が黒川時谷氏の耳に入つて、同氏所有の貯木場の一部を割受するから道路を拡げたらよいではないかとの自発的な申合せを行ひ、去る六日来浜した小沢建設大臣に対し、一路合併への途をばく進することになつた。

盛会内に終る

地方自治討論會

前号で豫報しておいた本討論会は十月十日午後七時から高等学校講堂で開催、長浜町教育委員会松田委員長司会の下に、自由党西田社会党岡本嵩、中正ク佐々木各県議が交々立つて町村行財政　教育諸問題について論じ、後聴衆の質疑に答へたのであるが、財政問題については

ク地方財政の赤字の原因は国の行財政配分上の欠陥にあり、之を救ふ為には合併後と雖も交付税増額の外途なしク　とする岡本氏ク既に合併した宇和郷の実態を解剖した結果より見て御援助があり、愈々この地に建築することになつたのである。

本事業について十一月五日入札の結果　門田組に落札、九日地鎮祭を行ひ、直ちに着工の運びになつた。

竣工は明春二月が豫定されているが、此所に入居される十四世帯の人々の喜びを思うとき、本事業に快く御協力頂いた、黒川氏外前記諸氏の御厚情に対し、深甚の敬意を表するものである。

起債を認め、交付税の合理的配分を見ねば合併後の事業計画は困難であるク

とする佐々木氏ク機構の自然縮減に依つて財政が、らくになるク

とする西田氏、各々政党政派の基本的理念の上に立つての見解であつた。

又教育問題については、岡本氏から教員定数の不合理や公民館活動費の削減等について論難するところがあり、佐々木氏からは教員配置の適正を強く要望し、西田氏は新教育は占領政策の一端とも云へると　言外に再検討の含みを持たせたかの論あり且、教員数の問題は經済を離れては解決しない。人員の不足は多数教員の努力でカバー出来るのではないかとの所論が打出された。

この二つの問題は地方自治体当面の最も重大なものであるだけに、簡単に割り切ることは困難であつて、尚幾多の問題を残したまゝで閉会になつたが、共に考へる時間を持ち得ただけでも大きな收穫であつたと思ふ。

俳壇

出石吟社

森薫花壇選

久保舟人

桑摘をやめて秋刀魚を買にけり

掲げてある生すかたむき秋刀魚ほす

山本溯舟

船の灯の時雨るゝ秋刀魚焼にけり

病院の窓より秋刀魚買ふており

雲瀬浩洋

椿の実落つ廻廊の絵馬仰ぐ

境内にユクの実奥院に椿の実

高左木芳

無造作にアマのさげ来る秋刀魚かな

放課後の校庭静か秋桜

石井栄一

火葬場の畫をミミズの鳴きあたり

尾を曳て濃霧の汽笛續きけり

城戸政子

手のぬくみ残して甘き熟柿かな

露宿る黄菊を惜みつつ剪りぬ

井上蕪風

コスモスを挿して授業をはじめけり

遠足の子に秋晴の橋上ぐる

島上肱舟

投げ売りをしてゐる秋刀魚買にけり

秋刀魚焼く脂の燃ゆることかなし

島上礁波

秋刀魚買ふて寒き雨降る町帰る

椿の実落ちて伊豫灘荒れ始める

久保智三哥

市となりし比村々や柿の秋

コスモスに埋もるホームに降りまちぬ

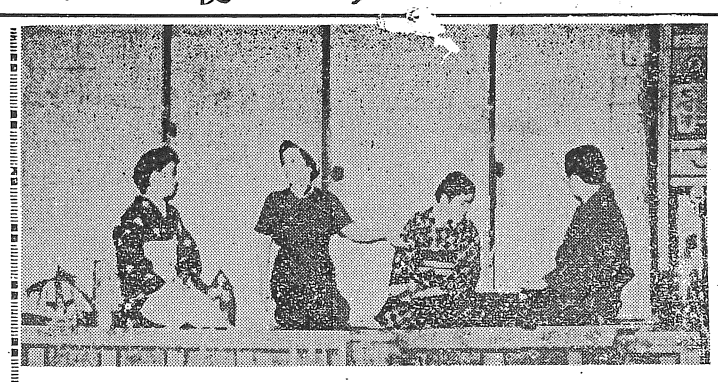
西村朗月

朝寒や豆腐の白はゴを垂らし

萩咲て風なき雨の今日も降る

敬老會
婦人會が盛大に

秋の催し物の白眉として待望されてゐる敬老会が、今年も婦人会の手に依つて十月三十一日盛大に催された。



長浜町（青島を除く）の七十才以上の高齢者は、二百十名、この中、百九十二名のお年寄りが、好天に恵まれて、年に一度の喜びに輝きつつ　当日の会場として、座主小野季広氏の厚志に依り　無償提供された公永座に續々と詰めかけた。

定刻、幹事高田カヨ氏の開会の辭に次いで、会長、清水アサカ氏より温情溢るゝいたわりと　敬愛に満ちた挨拶と共に、町村合併を間近に控へて、当町婦人が他の団体におくれぬ様に、錬成向上を期せねばならぬと云ふ強い決意の表明が為され、参列者一同に深い感銘を与へた。

次いで本年米壽を迎へられた高田カジさん（十八区）山本ムメさん（廿一区）村上チカさん（三十区）の三氏に対し賀詞並に記念品が贈られ、来賓として、末永町長、満野議長　小川教育委員、小野季広氏から夫々の立場に於て丁重な祝辞があり、更に高齢者を代表して小山龍之輔氏から、謝辞を述べられたのであるが、

〃年寄りは人間の体で云ふと『ヘソ』の様なものである。有つて何の用も為さぬ様なものだが、おなかの締めくくりの役をしていると思ふ。ヘソのないおなかを想像すると何となくだらしのないものを感じる。我々年寄りも、もう用事のすんだものとして引込まずに、家庭のしめくくり、社会のまとめ役と云う様な役割を受持つて大いにガンバリたいものである。併し身体が丈夫でないとそうした活動も出来難いが、如何なる状態におかれた老人でも、只一つだけは出来る仕事があるそれは選挙を通じて正しい政治に参畫すると云ふことだ。我々は多年の社会的経験と、物事を正しく判断し得る常識識見を働かして道義的な政治を推進し得る政治家を選ばねばならない金や情実で動かされる選挙ではよい政治は期待出来ない。本日婦人会の方々や、町内各階層の皆様から種々の激励を受けたので大いに若返つた気持がする益々元気でがんばります〃

と意気軒昂、壮者をしのぐ力強い挨拶があつた。

最後に副会長堀内貞子氏より閉会の辞と引續き行はれる慰安演芸会やおもてなしごとについての御案内があつて、婦人会諸姉の心づくしの手料理に依る折詰を開き、子供さん達の可憐なおどりや、婦人会員の素人とも思へぬ鮮やかな演劇に打興じつゝ、歓をつくして午後二時半散解した。

尚この敬老会に対し次の如き寄附金が贈られ関係者一同感激させられたのであつた。

金弐千円　檜田儀八氏
金弐千円　清水アサカ氏

（写真は劇、百万円の行くえの一場面）

青年の夕
教育委員　小川儀三郎　傍聴記

十一月三日「文化の日」を記念して当町青年団主催のもとに、松山商大講師高橋姫先生を講師に迎えて文化講演会が役場会議室に於て開催された。先生のお話は非常に肝銘の深いものなので、その大要を次に記して大方の参考に資したい。

……◇……

香るこの菊の花のように美しい花を心の中に咲かせたい、哲学者カントは最も美しいものは、夜空にきらめく星の美しさだと言つた人間の美は人を尊重することであり、人間の尊厳性ヒューマニズムをはなれた民主主義はない。民主主義は道徳を守ることによつて成り立つものである。

人間と獣の違ひは人間は考へ人間は内省することができる。ヘーゲルは、人間は堕落するが動物には堕落がない、即ち意識して進歩し、希望に対して考へる力をもつていると言つている人間は考へるアシであるとパスカルが言つているのも同じである。人間は少しの水が得られぬことでも、自然から生命を奪はれる。死といふことを思いこの死を静に考へて哲学するものである。民主々義の古典的のものは別として、近代的なものは英国で実を結んだ。それは神の前には国王も乞食も、男も女も、すべて平等であるというカルビンの思想即ちカルビニズムの宗教革命の考へ方が英国民主々義の基になつたのである。人間を形ち造つた道徳は純潔であらねばならん。民主々義に汚濁があつてはならない。政治は清潔であらねば効果は上らない。夫婦の関係は清潔であり、青年男女の交際は清くあることで意味があつて美しい。純潔を尊ぶ人は正直である政治をする人は正直であつて私生活でも、公的生活でも、人に敬まはれる存在でなければならない。

次には愛ということである。政治は人の生活をよくする経済の集中的表現である如く政治は又、立派な愛の集中的表現である。

愛と言う字は、まことの心を久しくと組合せて作られている。愛は明日からしようというものではなくて今すぐ実行するものであるまことの心とは、他人を生かす他人を尊重することでこれが社会生活の大本になる民主々義の本体である。愛は生かすだけでなく、相手を生長さすことである。

次には奉仕することである。奉仕とは、下坐ずることである。へり下つて人につくすことである。リンカーンは、大統領に就任したときの挨拶に、私は社会の奉仕者である貴男達の下男であると言うことを述べている。ソ連の共産主義革命を成功させたレーニンは政治する者の考へ方は報酬のために働くのではいかん義務のためにするのでも未だ足らん、一人が多くの人々に奉仕するために如何に努力するかということであるといつてゐる。奉仕は人にほどこすことである。

老人を敬い青年を励ますことも、駅の便所を責任のないものが掃除することも奉仕でありほどこしである。

長浜町長は、本町では最高の奉仕者であり町民の下男であり、下女の如く町民に奉仕するものであり、以下職員すべて同一の奉仕者でなくてはならん。国の最高の奉仕者は総理大臣であり閣僚である。

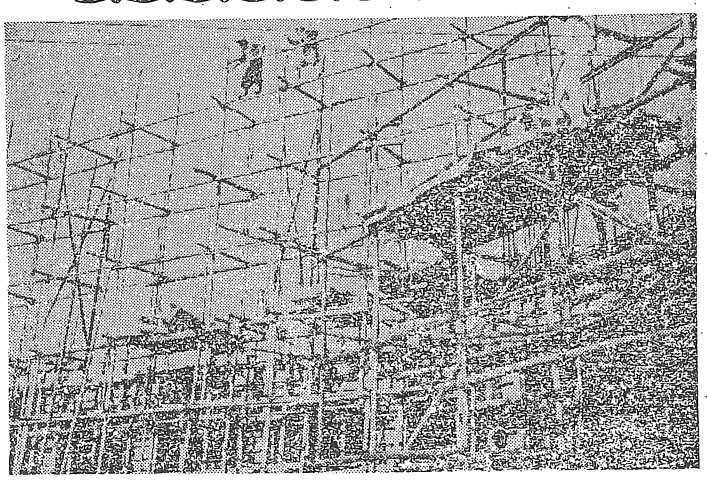
日本のかつての帝国主義は個人の利益を国という団体のために犠牲にした。国民個人の利益をふみにじる政治は国民がこれを倒すことがみとめられている。これが契約されているのが民主政治である。政治と道徳が一つでないと大衆は幸福になれない。政治するものは心の中に道徳という美しい花を咲かす人であらねばならん「文化の日」は輝かしい道徳を政治する人も政治させる人も全部が自分の心の中にとりもどすための日である。政治は議会によるのであり、投票によつて立派な人を送り出し、デイスカッション即ち立派な討議をするところである。

只単なる感情に左右されて政治に関することを行へば社会は決して良くならない政治家は広く智識を世界に求めなければならないから吉田首相の外遊も良いと思う、しかし吉田首相が国会の騒ぎをすつぱ抜かすための外遊になつたのでは国民の税金をむだづかいすることで否定せねばならない、智識は只何もかも米国に求めたのではいかん。社会主義の国家は泥坊であるときめてかゝつている政治家は鐵のカーテンを自分がしめているので日本のために好ましいことではない。中国にゆきソ連にゆき、どんどん良いものを吸収し視野を広くせねばならん。

米国主義だけの人が、中国とかソ連とか革新とかの線を偏向教育というのなればその人自体も米国への偏向である。日本は古くから、大和の国といつて来た。大和とは大いに和する国である。米国とも和する、中国ともソ連とも和する国であつてよい。吉田首相は最近いく分視野をこの方面に広げてきたようにも思はれる社会党の国会議員が中国に招待されるのに旅券をやらんともますなどは馬鹿げたことである。

吉田首相の帰国、保守新党の動きなど政界は復雑である。昔の二大政党は政友と民政の保守二大政党で、三井と三菱の財閥があとおしをした政治であるが、これからは保守対革新の二大政党の政治でなければ意味はない。それは英国のような対立した良い政治の国になることであり、これは今の国民の責任である。そのために、純潔で正直で愛のある奉仕のできる人を代表に選びこの四つのものが基になるところの道徳を心の中に抱いた人々、これの表れた社会を作ることである。裏を言へば自己革命であり昭和の維新である。そうして平和な日本、平和な世界をつくるために、国民大衆は努力しなければならない

中學校建築進捗狀況



一宮工務店の手で新築中の長浜中学校は、先般の第十二号台風で、足場やタワーの倒壊に依る大被害を蒙つたのであるが、その後懸命に復旧工作を續け、既に一階全部の打込みを完了し二階分の配筋　仮枠打ちに取りかかつている。

十一月末には二階全部のコンクリート打込みが完了する豫定で、施主　施行者共に一丸となり、一日も早く完成させんものと意気込んでゐる。

尚過般喜多採蠟所上田喜三郎氏より金五万円が寄附され、内半額は消防費に、残り弐万五千円を本事業充当資金として贈られた。記して感謝の意を捧げるものである。

清流會演說會

清流会の主催に係はる演説会が〃吉田内閣弾劾〃の名の下に十日十五日高等学校講堂で行はれた。

辨士は毛利松平、岩淵辰雄、三田村武夫の三氏。

本紙の性格上これ等諸氏の演説内容の全ぼうを伝へることは、種々の影響が考へられるので、当りさわりの少ない部分だけを抜き書して見よう。

毛利氏は持前の精力的な迫力を以つて、欧州東洋に於ける外交事情から説き起し、謀略戰の渦中に在る我国として、向米英で進むか向ソを採るかの問題を投げかけ、〃印度の第三勢力的存在であれ〃と割り切り、独乙と日本との敗戰感の相違の最も顯著なものとして独乙国民が明日への情熱をたきらせて精進してゐる姿持に労働者と資本家の協調が強化されてゐる実情を述べ、導入される外資に於ても、日本が多く消耗エネルギーに費消しているのに反し、独乙では専ら生産エルギーに用ひ、既に輸出国としての実力を強めつつあると断じ次いで国内事情に転じて我が大東亜戰争の犠牲においてかち得た、たつた一つのもの、それは民主々義政治である。その政治が果して行はれているか、と此の辺から独裁吉田としての非難が始まり失業対策、中小企業対策を忘れて金融独走のデフレ政策にのみ依存して、経済政策を行きづまりに追ひ落したこと、民主々義政治を破かいしたことの責任をとつて引退せよと結論するのであつた。

最後に彼が謂ふ〃濁流を排して清流を通せ〃とする信念や、〃人間とは永遠に不完全なものなり〃だからこそ明日の進歩を目指して努力すると云ふ彼自身の錬成への逞しい意慾には共感深いものがあつた。

次いで岩淵辰雄氏、流石に文筆の雄、舌頭亦聰く者をして一々納得せしめねば措かぬていの鮮やかさであつた。

先づ高校生を対象に呼びかけ、若さの尊さを強調、将来の歴史をつくるものは現在に生き将来をつくる我々にある、その推進の動力となるものは〃未完成に対する努力〃と〃自由を求める要求〃とであると前置して、この動力に依つて世界の歴史は綴られて来た。資本主義も共産主義もすべて然り。フランス革命に残されたところの富の不均衡に依る階級、これを除く為共産主義のたい頭、斯くて今世界は共産資本の二つに流れの中にあるが、何れにも欠陥がある。此の二陣営の闘争も歴史を推進する為の自由の要求であり、未完成に対する努力であつて、これは新思想に依つて解決する。既にしてマルキシズムの改革の時に達してゐると解明し、〃科学の進歩は思想を更新する〃ことの前提の下に、今日の原子力活用の実状を詳述、日本人はその能力に於て、科学的にも思想的にも他民族に劣らぬのであるが、その実力を出す政治が行はれていないと嘆じ、斯かる原子時代に於て国内で保守革新の両陣営が再軍備についてけんそうを續けてゐるが、何れも現実を遊離したタワごとに過ぎぬとて列強が費す科学研究費（米原子力に六十億ドル）と日本の夫れとを比較し、世界を対象としての軍備などとはおこがましいと保守をきめつけ、安保条約自体が米国の為の軍備の約束であるのだから、理論では反対論も成立するが現実ではどうすることも出来んではないかと革新をたしなめるのであつた。

更に経済事情を解説し、政治の貧困に依る経済界の危機、科学での世界の劣等国化する危険性を強調、倫安を事とする堕性もいけない、さりとてテロも排除せねばならない、選挙で社会を政界を浄化せよと結ぶのであつた。

三田村氏のは徹頭徹尾非難攻撃で終始したことだけを伝へて他は割愛する。

お知らせ
基本選擧人名簿縱覽

一　縱覽期間
十一月五日から十一月十九日まで

一、縱覽場所　長浜町役場

来春豫想される町長　町議　県知事　県議等の選挙は全部此の名簿に、よつて行われます。此の名簿に登載されていないと、選挙権はあつても投票が出来ません。有権者は一応自分が此の名簿に登載されているかを、是非確かめ、若しもれているようでしたら、此の縱覽期間内に異議申立をして下さい。

尚本年六月十五日以後新に当町に住所を移された方については、後日本人の申請によつて、別に補充名簿に登載されます。

御米の配給登録店變更について

お米の配給登録店の変更を希望される方は来る十一月十一日より同月二十日迄の十日間にその手續をして十二月一日より新らしい登録店よりお米を購入することが出来ます。

登録店の変更にはやはりいろいろと定められた規則がありますから登録店変更を御希望の方は、右期間内に配給係に申出で、手續をして下さいませ。

高校バザー

来る十一月二十二日と二十三日の二日間、恒例に依る長浜高等学校のバザーが開かれます。

父兄の惜しみなき協力と生徒さん達の心からのサービスに応へて大いに御利用下さいませ。

十月の會と催し

10・三　定例町議会
10・四　合併建設委員会
〃　合併助役書記事務連絡会
10・六　合併総務委員会
〃　町共同募金委員会
10・七　定例教育委員会
10・八　建設省関係災害査定
10・九　県会議員一行災害視察来町
10・一四　合併建設委員会
10・一六　合併助役書記事務連絡会
10・一六　参議院議員一行災害視察来町
10・二〇　合併総務。副委員長助役。連絡協議会
10・二五　合併消防団長連絡会
10・三〇　農林省關係災害査定

戸籍
（十月中届出分）

▼出生
吉川岩吉　二男　卓
浜井朝光　二男　繁一
中城勝芳　長女　芳美
山元萬吉　三女　孝
大山岩弘　長男　千太郎
矢野慶勝　長女　みどり
松本清邦　二女　令子
岸本准一郎　二女　和枝
梶本福宜　三男　頼政
浜井栄一　長男　幹樹

▼死亡
木原清水　サワ　孝子
政所　新一
山崎チエ子　穂積　真一